

## 経営説明会 質疑応答抜粋

### 【多結晶シリコン MOU 締結】

Q：多結晶シリコンのマレーシアのところで少し補足をいただければと思います。

副産物はどうするのか。四塩ケイ素とかトリクロロシランとか、こういったものの扱いも半々という感じなのか。また、リスクをどう考えるべきかです。多分御社のお考えとしては後工程を分けていけば大丈夫だということだと思うんですけども、本当にその考え方でいいのかどうか。お願いいたします。

A：まず一つ目のご質問、副産物の取扱いは基本的に JV でするので負担はそれぞれになります。しかしながら、基本的に副生物については全部回収して原料に戻す装置を導入しておりますので、そういった意味では工場の中で完結するというところでございます。

リスクに関しては、ご指摘のとおりで、特に昨今は析出よりもそのあとの工程の品質管理の比重が非常に高まっております。微小金属、あるいはカーボンの含有量が、PPT レベルのものを要求されております。後工程には大きなノウハウがありますので、この部分を分離し、日本に持ってきて後工程を行うのを一つの大きな大原則としてやっていく。そのことによって技術流出等々のリスクを抑え込んでいきたいと考えております。

Q：今覚書の締結の段階で、会社設立が 2023 年から 2024 年と報道されていますけれども、実際ものが出てくるのはいつぐらいか。

A：基本的な検討は今年中、2023 年中に終わりたいと思います。当局とのいろいろな調整がありますので、われわれの思惑どおり進むかどうかは分かりませんが、できればそれぐらいで終わらせたいと思います。ポジティブだという結論になれば、早速建設に取りかかりたいということです。

通常でいえば建設に少なくとも 2 年ぐらいかかってしまいますけれども、できるだけ納期を縮めるところを、この MOU を結んだ中での FS を通じて詰めていきたいと思います。それに伴って投資金額も圧縮できる可能性が高いと見えていますので、できるだけ短納期を目指して、できれば 2025 年の半ばぐらいには、概ね建設を終えられればと思います。

### 【カーボンニュートラルへの取組について】

Q：周南コンビナートのグランドデザインの策定が出されていますけれども、こちらによるポイントとか、あるいは CO2 削減のインパクト、あるいはコストの影響とかで何かコメントをいただけますでしょうか。

A：周南の脱炭素推進協議会におきましては、5 月 31 日に 2050 年のカーボンニュートラルの大まかな方向性はお示しさせていただきました。これの大きなポイントは、一つは燃料の脱炭素を何によって進めるかに対しては、基本的にはアンモニアを中心にいく。あるいはグリーンエネルギーを将来的には導入していくことが大きな柱の一つとなっております。過渡的には、バイオマスも有効に活用していこうということでございます。

一方、原料ならびに製品のカーボンニュートラル化がもう一つの大きな柱でございます。これに関しては基本的に化石燃料が使えない将来のことを考えたときに、大きな方向性としては特に石化原料として、まずはバイオマスを使っていく。

バイオマスだけでは足りないので、やはり廃プラスチックをいかにうまく循環させていくか。この併用が必要であると位置づけておりまして、バイオマスケミカルと廃プラスチックのケミカルリサイクル、これを実際にうまく組み合わせ、原料、製品のカーボンニュートラル化を図ります。